

山口市議会報告

Y o m a g u c h i C i t y C o u n c i l R e p o r t vol.33

地域政党
やまぐちの風

県都やまぐちにふさわしいまちづくり ～都市と農山村がともに発展～



令和8年 第3回山口市議会定例会 **質問と答弁**

パークロード周辺の まちづくりについて

▶質問

山口市民会館をはじめ、文教施設が並ぶ、パークロード周辺の今後のまちづくりについて伺う。

▶答弁

パークロード周辺は、市民会館と県立の美術館、図書館、博物館等の教育文化施設が集中して立地する県都の顔として魅力的な都市空間である。いずれの施設も開館から約50年が経過し、県と今後の在り方を議論すべき局面を迎えており、現地周辺での整備及び機能集積を県知事に継続的に要望している。創造文化都市としての本市の個性や特徴を伸ばし、都市の魅力をさらに引き出していくことは、本市都市政策の核心をなす方向性だと考えている。まずは、県と市による意見交換や情報共有の場を設けたいと考えており、今後、県に対して要望してまいりたい。



県立美術館周辺のイメージ

▶議会での主張

パークロード周辺はキッチンカーやカフェが出店し、歩道を活用した様々な活動が生まれ、歩いて楽しい歩行空間となり、安全で快適に回遊できるまちなかへと生まれ変わるべきである。

中山間地域における 農業振興について

▶質問

中山間地域では過疎化や高齢化による担い手不足により、生産基盤である農地の維持が厳しくなっている。今後の中山間地域における農業振興の方向性や、農業を支える担い手への支援策について伺う。

▶答弁

中山間地域の農業振興の方向性については、国において、水田活用の直接支払交付金や中山間地域等直接支払交付金等の見直しが検討されていることから、国の動きを注視しながら、これまでの水稻主体の営農だけでなく、水稻収穫後の裏作での麦や冬キャベツ、飼料用作物等の導入を図るとともに、園芸施設の活用によるトマト等の周年栽培や露地野菜を組み合わせた複合経営を推進する等、中山間地域の特性に合った、農地利用の仕組みづくりに取り組んでいく。また、地域の新たな担い手となり得る新規就農者の確保についても、国や県による支援策に加えて、家賃補助等の本市独自の支援策を実施する。



中山間地域の農地

▶議会での主張

次期総合計画策定に向けた取組が開始されるが、計画を策定する際には、中山間地域の農業者に寄り添った計画を策定するよう要望する。



庁舎前広場及び立体駐車場のイメージ

地域政党 やまぐちの風は、パークロードに接する庁舎前広場や市民交流棟、立体駐車場(令和10年度完成予定)の整備と併せて、庁舎前広場とパークロードの間に、中央公園に所在する、多くの若者でにぎわっているカフェを誘致すべきと訴え続けています。広場の向こうにサビエル記念聖堂の白い鐘塔を眺め、夜には本庁舎棟のライトアップも楽しめるお洒落な空間が多くの市民を魅了し、たまり空間としての機能を発揮するはずです。また、公園空間とカフェの相乗効果により、あらゆる世代で公園が利用され、賑わいが創出されることを期待しています。

創造的資源の教育分野・まちづくりへの活用について

▶質問

山口情報芸術センターYCAMがこれまで培ってきた知見や技術、人的ネットワークといった創造的資源を活用した、教育分野における取組の現状と今後について伺う。また、観光と結び付けた交流の創出や本市の魅力向上等、まちづくりにつながる活用について伺う。

▶答弁

教育分野における今後の取組としては、年間を通じて、いつでも体験、体感できるよう、現在、館内全体を活用した体験型展示の設置等、来館者が自ら参加し、学び、遊び、滞在することのできる環境づくりに向けた検討を進めている。具体的には、デジタル技術を活用した作品に直接触れ、操作しながら楽しめる体験型展示の常設や、作品制作の裏側を体験できるバックステージツアー、幅広い世代にとって刺激的で楽しい場となるような空間づくり等、多様な学びと体験の場を提供したいと考えている。まちづくりの分野では、国内外の技術者や研究者を招く「YCAM InterLab Camp」や、大友良英新作展「即興」などを通じて、交流人口の拡大や新たな人の流れの創出に取り組んでいる。また、「コログル公園」シリーズの展開により地域に新たな滞在価値を創出したり、地域の歴史・文化をテーマとした調査研究を通じて地域資源の価値を掘り起こし、市民の誇りや地域の魅力向上につなげている。今後は大学のゼミや企業研修の受け入れも視野に入れながら、YCAMの知見や技術、人材ネットワークを活用し、学びと創造が息づくまちづくりを推進する。



「コログルあそびのひゃっかてん」撮影：山中慎太郎 (Qsyum!)



「YCAM Dance Crew」撮影：山中慎太郎 (Qsyum!)



「tecpot-学べて創れる工房」撮影：丸尾隆一 (YCAM)

地域政党 やまぐちの風は、市民の皆様の声を大事にすることを第一の信条として活動していることから、市議会での議論について、自身が撮影した画像等と併せて、定例会ごとにわかりやすくお伝えしていくためにつくっているのがこの会報です。是非、ご覧いただき、お気軽にご意見等をお寄せいただければ幸いです。

▶質問

YCAMの常設展示を充実させさせていくべきではないか。

▶答弁

仕掛けについては専門スタッフに委ねるが、市も大きな方針を示しながら、予算の重点化等、しっかりとリードする。YCAMにとってもチャレンジな取組なので、時間をかけてしっかりと取り組みたいと考えている。

▶議会での主張

YCAMが有する創造的な学びの環境や体験は、都市の魅力としても大きな可能性を有している。市民自身がYCAMの取組の価値を実感し、「山口にはこうした財産がある」と感じる環境づくりが重要である。

新山口駅周辺における駐車場不足への対応について

▶質問

新山口駅周辺の駐車場の供給量や需要の状況、利用者ニーズ等を把握するための基礎調査により把握した主な結果と、市としてどのような課題認識を持っているのか伺う。また、今後どのように実効性の高い駐車場不足への施策につなげていくのか伺う。

▶答弁

調査範囲内には総収容台数で16,872台の駐車場があり、運用形態別だと、時間貸し駐車場が2,783台、月極駐車場が2,541台、店舗や共同住宅用等の専用駐車場が11,548台となっている。また、時間貸し駐車場や月極駐車場は駅から半径500メートル以内に集中し、そのうち約6割が、駅南側に立地していた。時間貸し駐車場の利用状況は、駅南側で利用率が高まる傾向となっており、休日には92%まで上昇している。月極駐車場の契約率は86%で、駅南側では95%と空きが少ない状況となっている。専用駐車場については、利用率が5割程度で曜日や時間帯による混雑は見られなかった。調査結果や駐車場の将来需要を踏まえ、関係者とも意見交換を行いながら、具体的な施策の検討を進め、公民が連携して持続可能で利便性の高い駐車場環境の構築に取り組む。



新山口駅北口

▶質問

立体駐車場の整備に向けて具体的に、どのような支援を考えているのか伺う。

▶答弁

具体的な支援策の制度設計については、関係事業者の皆様との意見交換を行いながら、年度内を目途に示したい。

▶議会での主張

立体駐車場を整備するにあたり、関係者との意見交換をしながら施策を考えていくことは重要なので、民間事業者の意見をしっかりと聞くことを要望する。

